

企業立地推進事業

アナ： 『市長が語る 2022 三島』第 14 回の今日は、「企業立地推進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 現在、三島市では企業の誘致活動にとても力を入れているようですが、そこにはどのような狙いがあるのでしょうか。

市長： 他市と同様、三島市でも人口減少と少子高齢化が進み、事業者数や製造品出荷額などに影響が出ています。これからの三島市はどうあるべきか、何が必要かを考え、三島市が最優先で取り組む施策として「観光振興」、「三島駅前の再開発」とともに企業誘致をすることとしております。企業誘致のキーワードは「働く場所を増やし、働く人を増やす」です。魅力ある良好な働く場を確保しなければ、若者の流出を食い止めることはできず、人を増やすことができません。人が増えて、人の流れが変わることにより、地域も活性化します。

これまでの取り組みの成果もあって、令和 3 年度の県外からの移住者数は、三島市が県内で最多となりました。今後は、このような三島市のもつポテンシャルを、更なる企業誘致につなげていきたいと考えています。

アナ： 企業誘致は税収確保にも繋がりますから、三島市が発展していくために、企業誘致は重要な鍵になりますね。

市長： 最近の大きな成果として、三ツ谷工業団地への医薬品関連企業の進出があります。

このメーカーは、感染症迅速診断キット製造の最大手の一つとして、新型コロナウイルス抗原検査キットの製造などを行っています。

現在、取得した約 1 万坪の土地を最大限に活用できるよう詳細を検討していると聞いております。

今回の取得によって、三ツ谷工業団地は、6 区画の全てが完売しました。

市内には大規模な産業用地が不足しておりますが、一方で、静岡県東部地域への企業の進出意欲は依然として強いと認識しておりますので、今後は、新たな産業用地の確保を目指すことにより、さらなる雇用と地域経済の安定化に寄与したいと考えております。

アナ： 新型コロナウイルス感染症のまん延防止には、迅速な診断が不可欠だと思います。

医療に強い企業が三島市に進出してくださるのは本当に心強いですね。

市長： 三島市は、県が進めている「ふじのくに先端医療総合特区」の対象区域となっておりますので、医療・健康関連産業の集積にも力を入れております。

東駿河湾環状道路の玉沢インターチェンジに隣接する事業用地においては、今年度末にアクセス道路が完成する見込みですので、今後、医療・健康関連企業の誘致に向けて、用地売却の手続きを進めていく予定です。

アナ： ソフト的な企業などの誘致も進めていると聞いていますが、どのような状況でしょうか。

市長： これからの多様で柔軟な働き方を選択できるよう、オフィスの誘致にも取り組んでおりまして、他市に先駆けて、賃料を補助する制度を設けております。

コロナ禍での新たな生活様式をきっかけに、必ずしも都心である必要がなく、広い空間である必要もないと気付き、賃料が安い地方へ移転するという流れが出始めており、企業の方からの問合せも増えております。

これからは移転先を決める際に「どこで働きたいか」が重視されるようになると思いますので、三島の特徴や魅力を積極的にPRしていきたいと思っております。

アナ： 将来を見据え、その他に取り組んでいることはありますでしょうか。

大場地区において、先ほどお話したような社会の変化を踏まえました新たなまちづくりの検討を進めております。

県立三島南高校の南側、約10ヘクタールの農地が候補地となりますが、東駿河湾環状道路の大場・函南インターチェンジや伊豆箱根鉄道の大場駅に近接する好立地ですので、企業誘致も選択肢の1つとして、地域の方々とともに、まちづくり基本構想の作成等に取り組んでいるところでございます。

企業誘致はゴールではなく、あくまでも三島の将来の為にスタート地点です。三島市が発展できるよう、引き続き企業誘致や市内企業のデジタル化などの支援を進めてまいります。また、女性の起業も応援してまいります。

アナ： なるほど。三島市が元気な街であり続けるには企業誘致をはじめ産業振興が大切であることが分かりました。

1社でも多くの企業を誘致していただければと思います。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。